

トンネル起工式

「日韓の未来開く」

有識者ら感激のあいさつ

日韓トンネルは、調査斜坑の起工式によって「夢」の段階から、いよいよ具体的な「ゴー」の段階に入った。

同計画が一躍、世界の注目を集めることになったのは、八月十一日、韓国・ソウル市で開かれた「第十回科学の統一に関する国際会議」の席上、国際文化財団創設者の文鮮明師の提唱からだった。

以来、満五年を迎えたこの日、佐賀県地方は朝方の小雨も起工式のころになるとすっかり上がり、見事な秋晴れが広がった。

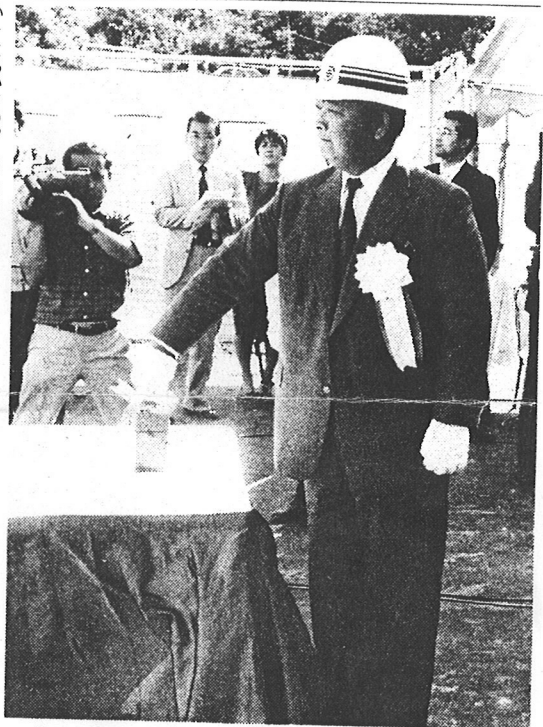
この起工式には、紅白の幕が張られ、「世紀のプロジェクト」の歴史的新段階突入のムードを漂わせた。

一望できる。参列者は将来、トンネルがその海底を進むことになる青い海の方向を感慨深げに見入っていた。

この日を祝してあいさつに立った日韓トンネル研究会会長の佐々保雄・北大名誉教授は、青函トンネル建設を指導した地質学の第一人者。「本日は世界の土木史上に書き加えられるべき一日。単にトンネルを掘ることにとどまらず、日本と韓国の国民がトンネルを通じて自由に交流、往来のできる未来を開く」と、紅潮した顔の半分を覆う白ひげをふるわせた。

た尹世元(ユン・セウォン)前慶熙大副総長も、歴史的な意義ある日を強調して、「この大事業は、必ず成功させなければ、韓国側も大いに力を入れていく。日韓トンネルは、新しい東洋文化創造の起点でもあり、日韓の明るい歴史がここから開くと確信している」と、感激のこもった日本語でスピーチした。

一方、地元を代表して鎮西町の吉田健三町長は「鎮西町は歴史的に韓国と関係が深かった。豊臣秀吉の朝鮮出兵の拠点といういわししい歴史もあるが、これからは韓国の人と手を結び合って友好の度を深めていきたい」とあいさつ。このほか青函トンネルの映画「海峡」でモデルとなった日韓トンネル研究会理事で元鉄建公団海峽線部長の持田豊氏は「このトンネルを成功させて、世界のトンネルの技術レベルをさらに上げていきたい」と語り、調査斜坑掘削を施工する熊谷組の石田二郎・福岡支店長も「三井ともしっかり手をにぎり、夢とロマンあふれる



起工式発破スイッチを押す久保木修己・国際ハイウェイ建設事業団会長＝佐賀県鎮西町名護屋で

トンネル事業を成功させたい」と語った。

・九大名誉教授は、地元九州における日韓トンネル研究会の支部長。これまでの地元での研究

や準備の目々を思い返すような感無量の表情で「今日から日本が島国でないようにする、その偉大な第一歩を祝したい」と杯を上げた。

斜坑の工事は、調査段階のものとはいえ、将来、本坑を掘る

ための作業坑となる。それだけに「いよいよ」という熱い思いは、起工式におけるダイナミックな火の轟音やパンパイ三唱の時と同じように「カンパイ」で参列者の胸を満たした。